

科目名称：	教職実践演習（幼稚園）	
担当者名：	森田 ゆかり、遠州 賢	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	2
授業の目的・テーマ		
<p>担当者を含み本学の複数教員と現職の幼稚園教員が担当する。保育現場へ出るにあたって不足している知識や技能などを補うとともに、現場での実践例を紹介し、実際にワークや模擬保育も取り入れながら「遊びを通じた学びの大切さ」を実感する。すべての保育内容が「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などにつながっている事を確認し、さまざまな視点から保育内容を考える。また、コミュニケーション力や表現力を高め、人と人のかかわりを楽しむ気持ちを大切にしたい。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>「学修評価シート（教職課程履修カルテ）」をもとに、教職に関する科目の入学の段階からの履修状況を踏まえ、学生一人一人の学習内容、理解度などを把握し、補完的な指導（特に実践的国語表現、保育者としての自覚・使命感など）を行うことにより、実践力の向上を目指す。</p> <p>また、保育現場における事例をもとにした実践的な指導を取り入れ、より適時な内容を提示し、現場適応能力につなげる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)	80		10	10	100
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》幼稚園園長（遠州）	《経験年数1》11年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
実践的国語表現（文書）	期待以上の文書が作成できる。	分かりやすくかつ見やすい文書を作成できる。	分かりやすい文書を作成できる。	分かりやすい文書を作成できない。量が少ない。
自分の考えの伝え方（小レポート、グループワーク、ミニプレゼンテーション）	他者の考えを尊重し、自分の考えを他者が納得できるように伝えることができる。	他者の考えを尊重し、自分の考えを論理立てて伝えることができる。	他者の考えを尊重し、自分の考えも伝えることができる。	自分の考えが他者に伝わらない。活動にあまり参加していない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 科目概要・授業計画、「学修評価シート」をもとに自身の課題を知る（森田、米川）	シラバスを精読しておく。	15分
第2回 季節の移り変わりを感じよう（遠州）	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などの指定ページ（第1回授業で告知）を読んでおく。	15分
第3回 ごっこ遊びから学ぼう（遠州）	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などの指定ページ（第1回授業で告知）を読んでおく。	15分
第4回 遊びの想像力を磨こう（遠州）	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などの指定ページ（第1回授業で告知）を読んでおく。	15分
第5回 実践的国語表現①（太田・三浦）	「日本語表現Ⅰ」教科書の指定ページ（第1回授業で告知）を復習。	15分
第6回 実践的国語表現②（太田・三浦）	「日本語表現Ⅰ」教科書の指定ページ（第1回授業で告知）を復習。	15分
第7回 実習報告会	実習報告会に向けてまとめたものを整理しておく	15分
第8回 実践的国語表現③（太田・三浦）	「日本語表現Ⅰ」教科書の指定ページ（第1回授業で告知）を復習。	15分
第9回 資格取得・就職に関して（水上）	就職に関する資料を整理しておく。	15分
第10回 実践的国語表現④（太田・三浦）	「日本語表現Ⅰ」教科書の指定ページ（第1回授業で告知）を復習。	15分
第11回 オリジナルを持とう（遠州）	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などの指定ページ（第1回授業で告知）を読んでおく。	15分
第12回 こどもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけと保育を改善する視点（森田）（電子黒板使用）	「幼児と表現A」「保育内容表現Aの指導法」ファイルの指定シートを復習。	15分
第13回 2年間の学びの振り返り（プレゼンテーション）（クラス担任）	第12回までのプリントなどを整理・復習。	20分
第14回 2年間の学びの振り返り（プレゼンテーション）（クラス担任）	第12回までのプリントなどを整理・復習。	15分
第15回 まとめ（森田）	第14回までのプリントなどを整理・復習。	20分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、上記内容以外に次回までの小レポートをまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、80%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 小レポート10%、授業への積極的関与10%		
課題に対するフィードバック		
課題レポートはクラス担任を通して返却する。		
教科書・参考書		
「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」 授業内容に関する1年次からの各科目の教科書、ノート、ファイルなど		